

# I 学校の概要

個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業

琴平町立琴平中学校

## ◆生徒数及び教員数

○児童生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
2学級 54名	2学級 50名	2学級 57名	2学級 7名	8学級 168名

○教員数 23名



## ◆学校の特徴

本校は町内唯一の中学校であり、琴平、榎井、象郷の3小学校（将来的に統合予定）から生徒を受け入れている。少子化が進み、現在はかつての3分の1程度の小規模校となっている。各学級の生徒は30名以下であり、ここ数年、生徒指導上の大きな課題は見られず、生徒は真面目にのびのびと学校生活を送ることができている。その一方で、不登校傾向の生徒が10名程度おり、大きな課題となっている。施設面では、ICT環境設備をはじめとして恵まれた環境の中で教育活動が展開できる状況にある。

また、将来の1小1中での連携を見据え、昨年度より外国語科と家庭科で中学校教員が専科指導として各小学校の全ての授業を担当する取組を進めている。

# II 研究主題等

研究主題

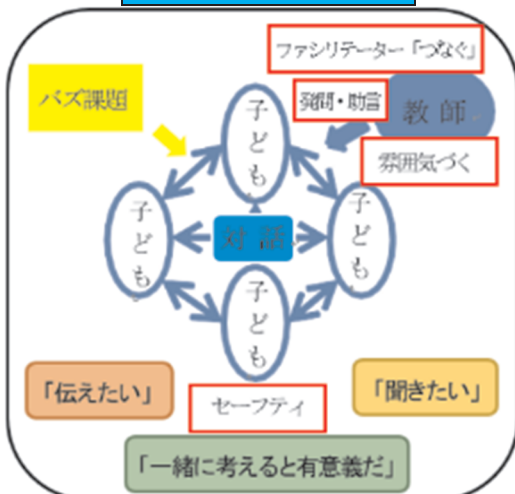
社会性を育む協働的・探究的な学びの充実に向けた指導体制・方法の研究（2年次）  
～ 琴中バズ学習と小中連携の実践を通して ～

## ◆研究主題設定の理由

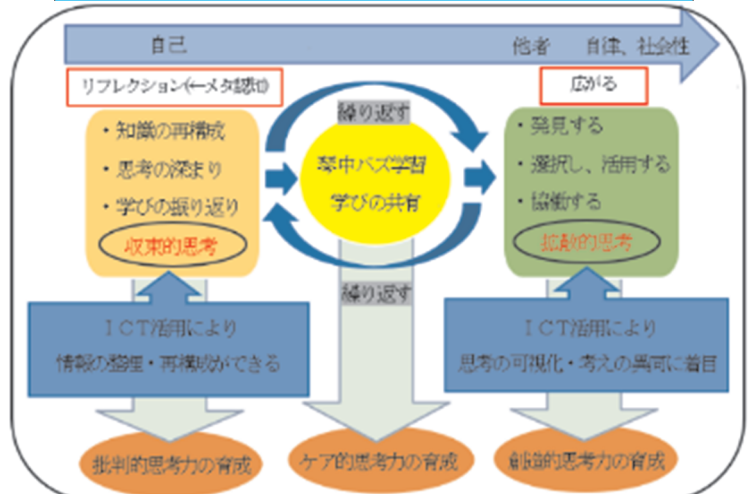
昨年度は、新学習指導要領の主旨を踏まえつつ、『協働的・探究的な学び』の充実に向けて学校全体として共通理解を図り、実践・検証を行ってきた。研究を通して、画一的な一斉授業からの転換を進める授業改善への意識改革を図ることはできた。今年度は、「琴中バズ学習」（※本校の協働的な学びのモデル）の深化を目ざし、現在、求められている『協働的な学び』を充実させる一つの方法として提案していきたい。

また、小中連携については、外国語科、家庭科の中学校教員による専科授業を行い、子どもの学びをつなぐ効果的な指導体制・方法について実践・検証を行ってきた。今年度は小中全体の学力向上を目ざし、各校における授業改善の視点を共有し、小中連携の在り方やその効果についての実践的検証を進めていきたい。

琴中バズ学習のモデル図



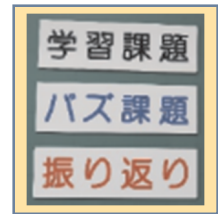
協働的・探究的な学びを通して思考を深めるモデル図



◆研究内容及び方法

① 教師がファシリテートする琴中バス学習の実践

校内研修にて、琴中バス学習についての共通理解を図り、各教員が年間2本の授業公開を実施する。授業ではプレート(図1)を活用し、琴中バス学習を取り入れた実践を行う。全教員で授業討議や参観メモ等を活用しながら、授業改善に向けた視点を洗い出し、教科横断的な視点で提言(図2)としてまとめる。



(図1)

① 取り組む内容を明確にしたバス課題の提示

- ・解決したくなるバス課題の開発
  - 生徒自身が問いを立てること。→「**自分ごと**」  
 思いのないところに想いは無い。
  - 必然と話し合いが始まる。
  - 与えられたものでは、感情が働かない。
- ・バスで課題を共有することで
  - 感情が抑制**される。
  - 視点の多様性**が向上する。

② ファシリテーターとしての授業のデザイン

- ・教師はあくまでファシリテーター。  
教師が出るのはここが教える場面するとき。
- ・分からない生徒が分かるようになるために**頑張る(説明する)のは、教師ではなく、教室にいる生徒たち全員である**ことを生徒に理解させること。→**自分の隣の子が大事**
- ・「**伝えたい**」、「**聞きたい**」、「**一緒に考えると有意義だ**」という状況をつくり出す仕掛け
  - セーフティが重要**
  - まずは**相手の話をしっかりと聴いて聞く**。(うなずく、メモを取る)
  - 子どもが**自分で考えて、言葉にして初めて既存の知識とつながる**。そして、級友の同意により一層強固となる。

③ 次時の学習に繋がる振り返りの充実

振り返りによって

- ・「自分は何をどのように学んだか」学びを自分にとって**価値あるものとして腑に落とす**ことができる
- ・生徒が**新たな自分を発見**し、自分自身の**興味・関心や特徴に自信**をもって、これからの**学びに生かしていく**ことができる。

どう振り返る

- ①毎回の**授業の終わりに行う振り返り**と、**学習の最後に行う振り返り**
- ②時には、先生から問いかけをしたり、**観点を決めて振り返る(観点を絞って振り返る経験を積んでいく)**

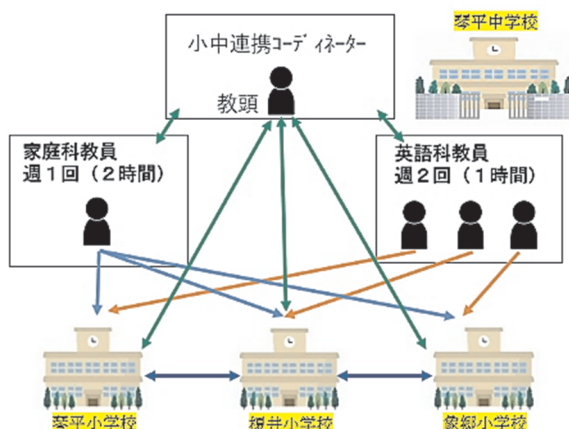


(図2)

② 町内3小学校と連携した授業実践と研修の充実

小学校での専科授業では、学びのつながりを大事にしながら、学習規律の継続性、学習内容の連続性・系統性を見直しやつまずきの分析、指導と評価の一体化を行い、その効果や指導体制・方法について検証する。また、小中連携コーディネーターを置き、連絡・調整を行う運営体制についても探っていく。

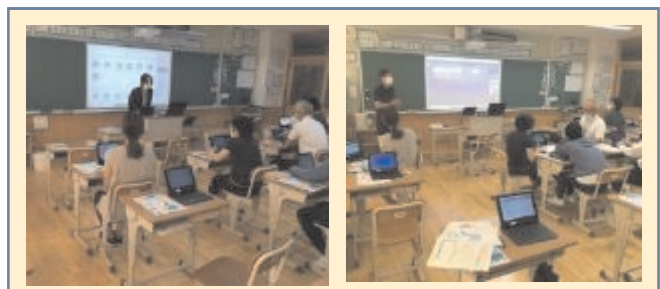
小学校における専科授業の具体図



- ① 小中連携コーディネーターを校務分掌に設け連絡・調整を行う。
- ② 中学校の公開授業・授業討議へ小学校教員が参加し、授業改善に向けたアクション・リサーチを行う。
- ③ パフォーマンス課題に基づいたルーブリックを作成し、指導と評価の一体化を図る。
- ④ 小中連携型「CAN-DOリスト」の作成により学習内容の系統の見直しと学習到達目標を明確に示す。

③ タブレットPCを活用した授業デザイン

校内情報推進担当やICT支援員、ICTソフト、外部指導者等による校内研修を計画・実施し、研究授業を通して、ICTを活用した授業デザイン力の向上を図る。



### III 研究実践

#### ◆指標設定と達成に向けた取組

(児童・生徒) ※指標：「①取り組んでいる+②どちらかといえば取り組んでいる」の合計

授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。



学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。



#### 指標の達成に向けた実践

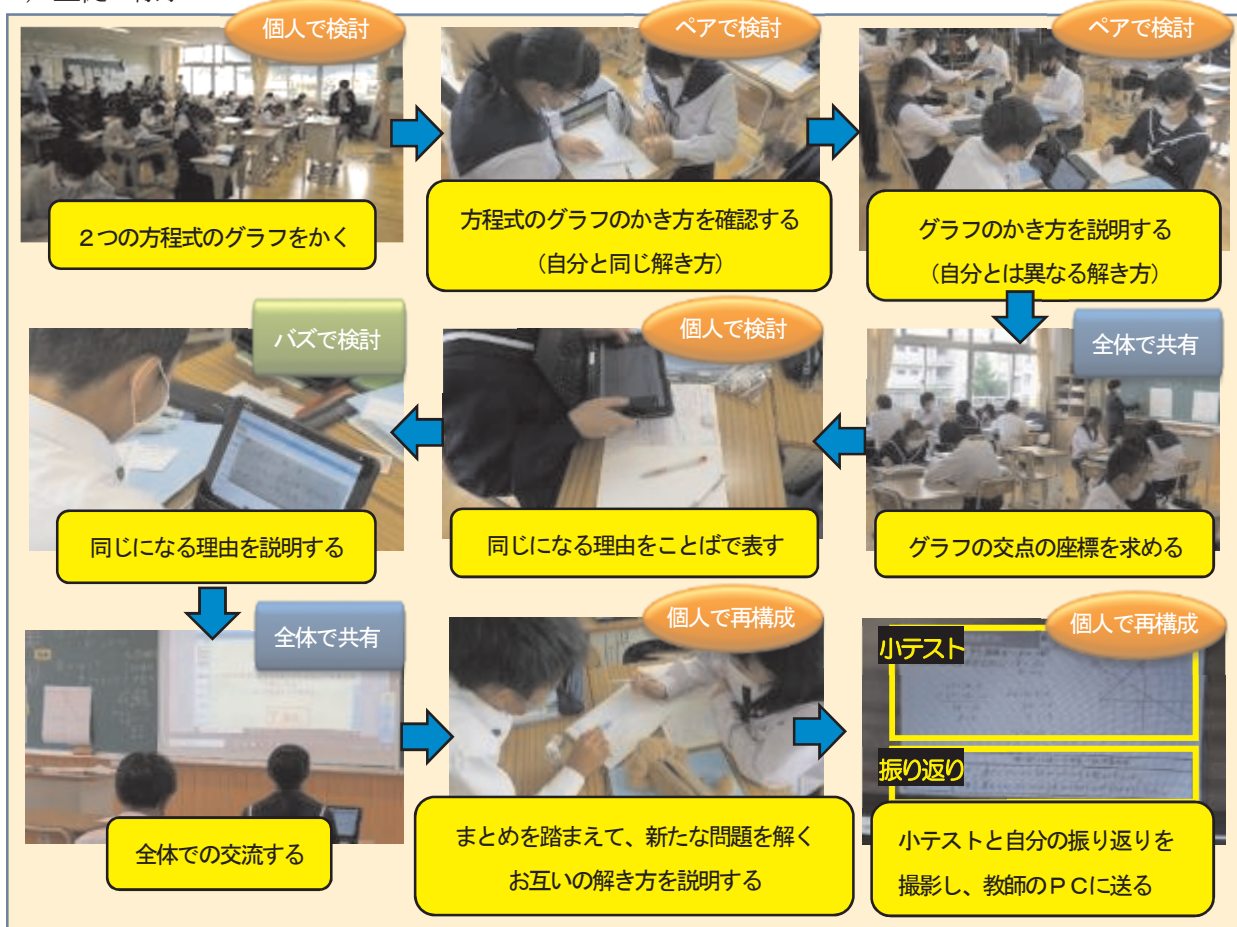
##### (1) 2年 数学科「一次関数」

本時の学習課題：「2つの方程式のグラフの交点の座標を求めよう」

本時のバズ課題：グラフの交点の座標が、連立方程式の解と同じになったのはどうして？

バズ学習のねらい：交点の求め方を説明する活動を通して、表現力を養うとともに、多様な考えを認め、よりよく解決しようとする態度を養う。

##### (2) 生徒の様子



◆指標設定と達成に向けた取組

(中学校教員) ※指標：「①取り組んでいる+②どちらかといえば取り組んでいる」の合計

生徒がお互いの考えを共有し、学びが深まるように ICT 機器を活用した授業展開を工夫していますか。



(中学校教員 ※琴平中学校独自のアンケート)

生徒が協働的・探究的な学習を進める手段として、タブレット PC の効果的活用を行っていますか。



指標の達成に向けた実践

- (1) 1年生道徳科の授業：支援ソフト（オクリンク）を利用。自分の意見を色で選択し、選択した理由を書き、教師のPCに送ると、全員の意見が黒板に表示される。

【香川大学教職大学院 清水顕人先生  
による指導・助言】

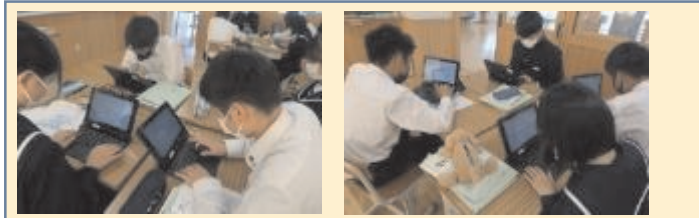


Sky Menu を利用した対話ツールとしてのタブレット PC の活用法について

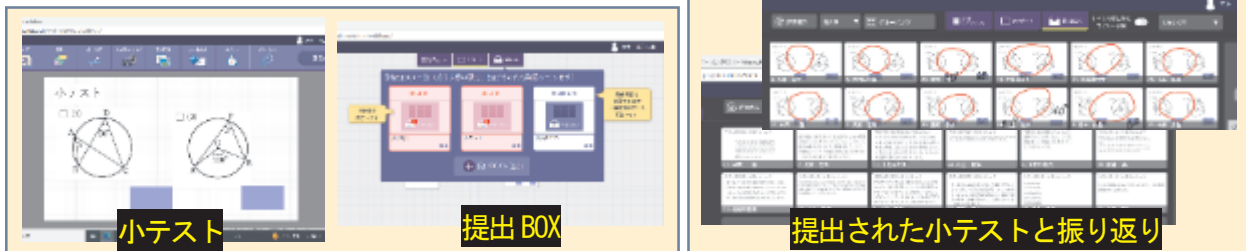
- ・「思考テンプレート」の活用
- ・カード作成とグループワーク
- ・ポジショニング
- ・画面一覧機能：一覧表示は対話の入口、横につなぐことが重要 等



- (2) 2年生理科の授業：文章作成ソフトを利用。理科の授業で章末にレポートを作成する。



- (3) 3年生数学科の授業：支援ソフト（オクリンク）を利用。授業の終末に小テストと振り返りを実施し、それぞれを教師のPCに提出する。



- (4) 3年生数学科の授業：支援ソフト（オクリンク）を使用。各自がオリジナルの図形問題と解答を作成し、まずはバズ班内でお互いの問題を解きあう。その後は、各班から他の班にも解いてほしい問題を推薦したり、自分で問題一覧から解きたい問題を選んだりして、様々な問題に触れる。



◆特徴的な取組

町内3小学校と連携した授業実践と研修の充実

① 小中連携コーディネーターを校務分掌に設け連絡・調整を行う。

- (1) 校内外の関係者との連絡・調整・研修会等の案内
  - ・担当教員に小学校の月予定、選案の配付依頼
  - ・各小学校6年生の中学校での外国語科の授業実施（各校2回）
  - ・各小学校5年生の中学校の調理室での調理実習実施
  - ・中学校での公開授業・授業討議に小学校教員が参加
  - ・次年度の年間計画の作成
- (2) 現職教育主任会（町内3小学校、中学校）の実施
  - ・各校の現職教育の取組等を共有し、小中の縦の交流だけでなく、小学校同士との横の交流にも役立っている。
- (3) 校内の教員の相談窓口（指導・助言）
- (4) 小中連携に関するアンケートの実施と分析（小学校5・6年生児童、小学校教員）



家庭科の授業の様子



外国語科の授業の様子

② 中学校の公開授業・授業討議へ小学校教員が参加し、授業改善に向けたアクション・リサーチを行う。

授業改善を図るため、中学校の教員だけでなく、異校種である小学校教員も討議に参加し、一緒に考えていく。多面的・多角的な視点から問題をとらえることに繋がり、授業改善に向けての視点が明確になる。



小学校教員も参加した  
授業討議の様子

③ パフォーマンス課題に基づいたルーブリックを作成し、指導と評価の一体化を図る。

観点別評価・評定については、中学校と同じ3観点だが、観点は◎、○、△、評定は3、2、1。中学校とは異なる。中学校教員がすべて行う。

学校でのようす  
外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間及び学習や生活のようす

※A小学校6年生の「学びのたより」

外国語活動の様子を文章表記。中学校教員が授業への取組の様子やアンケート、パフォーマンス課題等の結果を踏まえ、評価を行い、小学校の担任へ伝える。

豊郷小学校6年生外国語科  
インビューテストのお知らせ

日時 11月24日(木)

内容 ①目標の達成度(聞く、話す、読む)  
②Lesson 8「What sport do you like?」・・・好きなスポーツ、してみたいスポーツ、好きなスポーツ選手をたずねます。

評価する点

- ・アイコンタクト：質問をする人の目を見て答えられているか
- ・声質：まじい表情を向けて聞かされているか
- ・声の大きさ：聞き取りやすい声の大きさか
- ・活動量：英語らしい発言で場面が活発か

ポイント	内容	声の大きさ	活動量
3 点	聞き手の目を見て、内容を正確に理解している。	聞き手を意識し、聞き取りやすい声で話している。	英語らしい発言で、場面が活発になっている。
2 点	聞き手の目を見て、内容を正確に理解している。	聞き手を意識し、聞き取りやすい声で話している。	英語らしい発言で、場面が活発になっている。
1 点	聞き手の目を見て、内容を正確に理解している。	聞き手を意識し、聞き取りやすい声で話している。	英語らしい発言で、場面が活発になっている。

パフォーマンス課題とルーブリック

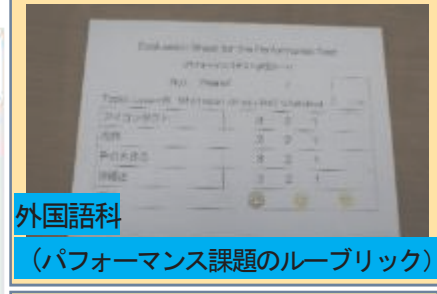


④ 小中連携型「CAN-DOリスト」の作成により学習内容の系統の見直しと学習到達目標を明確に示す。

【小学校 第2学年】の学習到達目標	【中学校 第2学年】の学習到達目標
<p>聞くこと</p> <p>よく聞き取りと話しければ、日程、時間、数値、場所、についての特徴的な語彙や基本的な表現を聞き取ることができる。</p> <p>よく聞き取りと話しければ、思い出す学習の目的に関するスピーチを聞いて、具体的な情報を聞き取ることができる。</p> <p>よく聞き取りと話しければ、中学校でしたいことに関する目的を聞いて、その内容を聞き取ることができる。</p>	<p>読むこと</p> <p>活字で書かれたアルファベットの文字と小文字を識別し、その読み方を正確に発音することができる。</p> <p>活字で書かれた代表的な形や語彙の読みを識別し、発音することができる。</p> <p>音声で十分に慣れ親しんだ日本語や外国語に関する読み聞かせの音声が分かる。</p> <p>音声で十分に慣れ親しんだ日本語や外国語に関する基本的な意味が分かる。</p>

6年生は中学校教員が作成。5年生以下は中学校教員のアドバイスを受けながら小学校教員が作成した。

「小学校3年生から中学校3年生までの7年間に繋ぐ力」を明確にしたうえで、目標の一貫性と発達段階に応じた内容の系統性を明確にした。



外国語科  
(パフォーマンス課題のルーブリック)

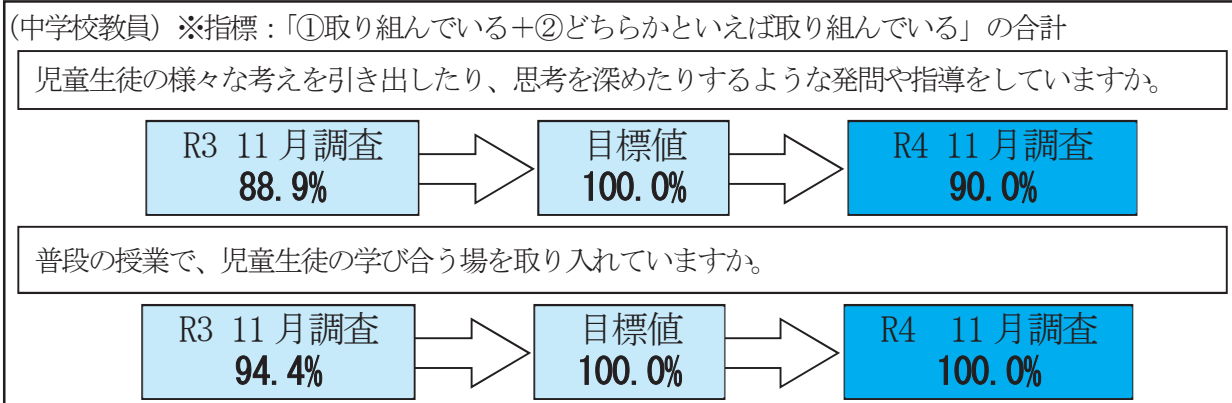


外国語科のインタビューテストの様子

## IV 研究の成果と課題

### 1 成果

- ・ 「研究成果の参考とする指標」の11月の結果は、5月に比べて11項目中8項目で数値の伸びが見られた。児童・生徒間ケートの「協働的・探究的な学び」に関する3項目は全て5月の数値を上回った。
- ・ 中学校教員へのアンケート結果から琴中バズ学習も2年目を迎え、授業の中で日常化していることが伺えた。

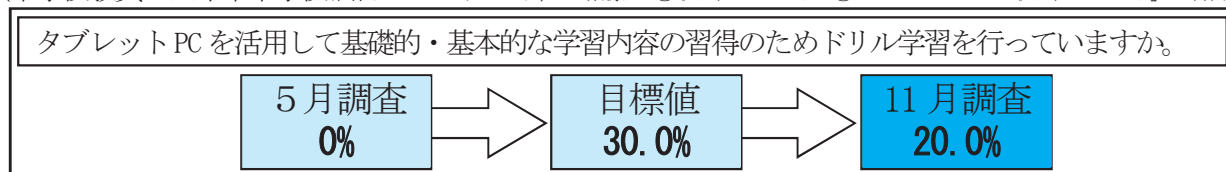


- ・ 小学校教員の専科授業に対するアンケート結果は昨年同様に満足度が非常に高い結果であった。2年目を迎え、授業が有効に機能し始めており、児童の学びに好しい成果をもたらしつつある。また、この連携がきっかけとなり、中学校での外国語科授業のスタートに向けて3小学校揃えてドリルを購入するなど横の関係の構築にも寄与した。

### 2 課題

- ・ 生徒アンケートより琴中バズ学習の実践が、生徒の学習意欲等の情意面での良き変容に繋がっていることは明らかとなったが、バズ学習の質的向上や教師のファシリテーション力向上などの教師の指導力向上に向けて、引き続き学校全体での研修を進めていきたい。
- ・ 「協働的な学び」と「個別最適な学び」の一体的な充実に向けて「指導の個別化」、「学習の個性化」を生かした授業改善に取り組む。その一つ的手段として、タブレットPCのAIドリル活用を推進し、自分に合った課題を自分に合った追究の仕方で行っていき、経験を積み上げていきたい。

(中学校教員 ※琴平中学校独自のアンケート) ※指標：「①取り組んでいる+②どちらかといえば取り組んでいる」の合計



- ・ 中学校教員へのアンケート結果から、自身の授業での生徒のタブレットPC活用に関する肯定的な回答は40.0% (P4参照) と、5月より大幅に増加しているものの、十分な活用状況とは言えない。ICTだからこそできることを生かし、対話の活性化や多様な考え方に触れる機会を増やすなど、資質・能力育成に向けて今後も取り組んでいきたい。また、次年度も情報担当が中心となり、教員のICTスキルアップに向けた実効性のある研修を計画的に進めるとともに、同僚関係を大切に育み、日常からICTの活用についてお互いに話し合える教職員集団を形成していきたい。
- ・ 新たに小中連携コーディネーターを設け、小中連携の充実に向け取り組んできた。課題として小・中教員による研修機会の確保と定期的に協議を行う機会の設定、今年度作成した外国語科での小中連携型「CAN-DOリスト」を基にした授業実践等が挙げられる。小・中学校の教員が「子どもたちをどのように育てていきたいか」「9年後、中学校を卒業するまでにどんな力を身につけてほしいか」と具体的な子どものあるべき姿を共有することを大事にし、円滑な小中連携の在り方を模索していきたい。